

# 医家随想



バアチャンの

安価安全旅行法？

隅坂修身

## にわか画伯のスケッチ紀行

「広辞苑で「旅行」を引くと、「徒歩または陸上・水上・空中などの交通機関によって他郷に行くこと。旅をすること。たび。」とある。昔の旅行は「旅は憂いもの辛いもの」と言われた様に不便なうえ苦難の連続で、修行の場とも言われた。現代は交通事情もがらりと変わって楽になったが、飛行機は分類上で飛道具になるのか、あの様な恐ろしい物には乗らないと言う人もいるし、「俺は時間が無いから、たびたび旅はできないのだ」と耳に

することもある。

たつぷりの時間のある学生時代は、体力も気力もあっても、無いのはお金。年を重ね、少しお金に余裕が出来た頃には、家を空けられない、自身の病気の不安から遠出は出来ないことも起こりうる。病気になるっても国内ならいざ知らず、海外でこちらの訴えがよく理解されないと、致命傷となりかねない。こんな時には、水杯を交わして旅立とう。

ところで、病院の仕事に追われていた頃には自覚しなかったが、ある時ふと、我が輩は材木屋なのだと思いが付いた。あれもやりたいこれもやりたいと、実にきが多いが、このきは売れもしなければ売る気もないテレビや本も面白いが、絵も描きたい。「芸術は長く人生は短し」と格

好を付ける必要もないが、面白いことが多すぎて、夜遅くまで起きている。すると、家族が早く寝るようにと忠告してくるが、返事は、「寝不足は、あの世に行ったら解消するから、起こしに来るなよ、来ても起きないよ。」となる。だが、あの世でぐっすり眠らせてくれるだろうか？

さて、我が輩の旅の作戦は、自分の体力に少しは自信がある間は、主に国外を攻め、体力に不安を抱くようになったら、国内に絞っても絵の題材には事欠かない。さらに足許が危くなれば、「骨折り損のくたびれ儲け」になる前に、大画面ハイビジョンテレビの前に陣取り、本を手元に置く。テレビは、録画をしておき、深夜でも不満も言わず何回でも付き合ってくれる。

写真集やテレビ番組の製作にあたっては、多額の予算、季節も場合によっては四季にわたって、天候、航空機、水中カメラ等が検討される。野生動物の映像に至っては、現れるまで何日もの根競べと



あなたは洋装派



それとも和装派？

なる。到底、個人では出来るはずもない豪華な旅が、家で寝そべっていても出来る時代なのだ。

それじゃまるで、ジイチャン・ツアーやバアチャン・ツアーじゃあないかだつて？ いや！ バーチャル・ツアーである。目下所持せるカシオの電子辞書の広

辞苑で、「ばあちゃん」と入力すれば、

『バーチャル・リアリティー (virtual reality)……仮想現実。 仮想現実感』が真つ先に現われる。心の在宅介護、在宅ガイド付き心の旅であるが安く、実際の旅行ではこうは行くまい。「失うものがあれば、得るものもある。」

世の中うまく出来ている。旅に出る時間の取れないあなたも、直ちに実行出来るやり方である。それにこの旅行は、交通事故や盗難、場合によっては、ハイジヤックやテロに巻き込まれる心配もなく安全である。しかし、切り立った断崖絶壁でのロック・クライミングは、安全を最優先してはできないのでは。時も金も人生も、その人の価値観で使われ、満足感を糧にすることが出来ると、仮死状態で勤務していた人が、突然元気になるってしまう。しかし現代人は、「糧を棄て船を沈めた。」と耳にただけで、シヨック死するかも知れないほど脆弱となってきた。

## 「内向性克服」を狙い

### 柔道部へ

小川再治

私の専門の心理学では「向性指数」という言葉で内向・外向の程度を示すが、二〇点以下の人間は「超内向」といわれ、社会生活困難とされている。旧制高校時代の私が、まさに超内向だった。

私は高校卒業までに、辛うじて社会生活可能といわれる六〇点に達しようと思つた。その爲に用いた方法は、(一) 超弊衣破帽主義 (二) 柔道部入部 の二つだった。(一)は少し恥ずかしかったが、(二)(二)とも多少は役立ち、卒業までに目標だった六〇点を辛うじて越えた。但し幼児、女の子に投げ飛ばされた非力の私にとって、(二)は少しおびえを感じた。

当時母校では、全生徒に必ず運動部に入るよう指導していた・生徒に第一・第二志望を提出させ、教授会で各運動部に

配分していた。私はためらいながらも第一志望に柔道部を選んだ。数日後、某教授が全生徒を集め一人ずつ入部先を告げていった。高校には文甲・文乙・理甲・理乙の四クラスがあり、教授は文甲の生徒から順に決定した部の名を伝えて行った。そして柔道部の番になった時、一番先に名を告げられたのは文甲の私だった！ 私はこの学年随一の弱虫で有名だったので、全生徒が爆笑したのを思い出した。私以外に入部を認められたのは、ほとんど黒帯の猛者で、落選者全員が私より遥かに強かったからである。恐らく教授達は、極端に非力な私のけなげさに同情して入部を認めたのであろう。

私と一緒に入部した人達は弱い私に同情して、乱取り（練習）にはいつも手心を加えてくれた。勿論、体外試合の時は、応援に廻されたが。ただ、下級生との乱取りは悲惨だった。ズブの素人に投げ飛ばされて、毎日曇みに接吻させられていた。しかし弊衣破帽と柔道は、私の超内

向を、よりましな内向まで変化させてくれるのには、役に立ったと思っている。余談になるが、柔道は一回だけ役に立ったことがある。四十歳頃、大学教員だった私は新宿駅の地下道で他人にぶつかりはね飛ばされて転倒したことがある。その時無意識の内に柔道の受身をやり、負傷を免れたのだった。弱くて投げられればかりいたので、受け身だけは上手になっていたらしい。

### 方言は宝言

## 方言の根幹は訛

中山 康夫

新幹線の各座席には「トランヴェール」というJR発行の月刊冊子が備えつけられている。これを読むのも楽しみの一つだ。とくに内館牧子筆の巻頭エッセイに興味をそそられる。今年の四月号には「ふるさとの訛」という文が載っていた。秋田生まれの内館さんが、ある時秋田生まれ・秋田育ちの男女二人と、これも秋田生まれの女将がいる和食店に行った。しかし、期待に反して女将に訛はなく、秋田生まれで秋田育ちと称するアルバイト学生からも秋田弁が聞かれなかった。女将はたしかに秋田弁を使うのだが、内館さんの弁を借りれば「東京出身の女優が秋田弁のセリフを言うのに似ていた」ということだ。

このようなことは今は全国どこでもあられると思う。小千谷でも若い人たちからは、昔懐かしい小千谷弁は聞かれない。商店の若い店員などが、年配者に対して親しみを込めて方言で喋ろうとしてもやはり単語だけ方言の標準語なのだ。さて、小千谷方言手拭いの東関脇は「そんまそこ」だ。意味は「すぐそこ」で、語源は「そのままそこ」だろう。ただ、生粋の小千谷人が発音すると「そんま」よりは「すんま」に近い発音になる。そこで「すん」を寸と書くと「ちよっと。わずかに」の意味になるので、ここによると「寸の

間」の方が語源としては良いかもしれない。

西の關脇は「おらおごつだ」である。

「おごつだ」は「おおごと(大事)だ」のことである。「おおごと」は広辞苑にも「平常とかわつた重大な事がら。大事件。だいい」と説明されている。尚手拭いには末尾が「だ」と濁点で書かれていたのだが私も祖父も友達も「だ」でなく、濁らないで「おおごつた」と「た」と発音していた。「おら」は一人称で自分のことを指す語でもあるが、この場合はそれではなくて「おやまあ」くらいの意味である。その時によって「おーら」と言うこともある。

小結は東が「なじだね」で西は「だあすつけ」が載っている。「なじ」の語源は「なじか」で、有名なローレライの日本語の歌詞

なじかは知らねど 心わびて  
の「なじか」であろうと考えた。「なじか」は古語辞典によれば「なじしか」の

転で「どうして」の意味である。

見まく欲り わがする君もあらなくに  
なじしか来けむ馬疲るるに

大来皇女(万葉集一六四)

——会いたいと私が思う大津皇子もいないことなのに、どうして帰つて来たのであるう。いたずらに馬が疲れるばかりなのに

ただ、これは「なぜ。どうして」という疑問の意味が強いので、小千谷弁の「いかが。どんな具合ですか」という意味とはいくらか違うような気がした。それで更に辞書を読み進んでみると「なじやう」という語に当たった。これは漢字では「何様」と書かれ、意味は「どんな様子。どのような」である。源氏物語手習いに次の文がある。

人にかり移して、何様の物のかく人  
惑はしたるぞと、有様ばかりいはせまほ  
しくて

——どのようなものがこのように人を惑わしたのだらうかと

実は十日町や魚沼では、あるいは小千谷でも人によって「なじ」を「なじよ」と言う人も少なくない。そうすると、私が「なじよ」は「なじ」の訛だと思つていたのが実は「なじよう」の訛で、「なじよ」の方が正しい言葉だということになるかもしれない。なお「だね」の発音は、はつきりとは濁らずに「らね」と聞こえることもある。「ね」も「の」と言うことも多い。

西の「だあすつけ」は「であるから」の意味である。私達は「すつけ」でなくて「すけ」が普通だった。ただ、力を入れて話すと「だあすつけ」になる。年配の女性が話し合っているのを聞くと「だあすけそう」がよく出て来る。「すけ」は近世上方語の理由を表す接続助詞「さかい」の訛であろう。「何々やさかいに」は現代大阪弁でも使われている。

「すけ」は越後弁では多く使われる語で、これを付ければとにかく越後弁に聞こえる。

すぐ行くから↓すぐ行くすけ  
暗くなったから帰ります↓暗くーら  
なったすけ帰りますすてえ  
といった具合である。

ところで「なじか」の原語「なじか」  
に意味が近い小千谷・魚沼方言には別に  
「なんして」という語がある。そこで先  
の万葉集の歌を小千谷弁に訳すところな  
る。

会いたいとおら思うしよも居ねがんに  
なんして来たろ 馬疲れるがんに  
こういうような、古典をたどれる方言  
がだんだん消えるのは残念だ。

## 変革の芽

星野 和 男

産業革命真っ只中の英国でイノベーシ  
ョン（刷新・変革）という言葉は初めて  
語られた。英国市民の生活は、変革とい  
う現象によって、劇的に変化していった。  
産業革命の落とし子として、ガス灯が生

まれた。それまで街頭に使われていたオ  
イルランプは、またたく間に駆逐されて  
いった。ガス灯はオイルランプの1/4  
もの安いコストで、同じ明るさを得るこ  
とが出来た。

それから200年を経過した日本で交  
通信号灯の電球が、発光ダイオード（L  
ED）に置き換えられた。青色LEDの  
開発がきっかけであった。さらに青色L  
EDと蛍光灯とを組み合わせた白色LE  
Dが開発され、電球や蛍光灯に置き換わ  
り、新たな用途が開発され、広く使われ  
るようになった。LED開発は50年の歴  
史を持つ。最初、赤色から緑色までのL  
EDが開発された。その後青色LEDの  
開発によって、従来のLEDのほぼ6倍  
の巨大な市場を創造した。

この分野ではまったく無名の日本の片  
田舎の化学系小企業、日亜化学工業が1  
993年11月に、明日から青色LEDを  
出荷すると発表して、世界中を驚かせた。  
青色LEDの開発に成功したと言ってい

るのではなく、明日から出荷すると発表  
したのであった。この瞬間、LED製造  
を専門とする世界のエレクトロニクス系  
大企業に、日本企業が勝利した。

LEDの開発は1950年代に、半導  
体材料を利用して開発、製造がスタート  
した。これにより赤色から緑色までのL  
EDは実現し、消費電力が低く、寿命が  
長い固体の明かりは広く普及していった。  
1993年青色LEDを開発した日亜化  
学は、1996年にまたまた、たった1  
個のLEDを用いて、白い光を発色する  
LEDを世界に先がけて開発した。青い  
光りのLEDを使い、蛍光体を励起して  
黄色く発光させ、更に補色の関係にある  
これらの光りを混ぜ合わせて、白い光を  
発光する白色LEDをつくりあげた。

この白い光のイノベーションが起こっ  
たことにより、市場は急成長した。表示・  
照明・ディスプレイ用などの巨大な市場  
が生まれた。LEDの分野で効率的に市  
場目標に進む道しるべの機能を果たす出

来事となり、評価できる物さし（規範）となった。全体を見わたし、LED開発のシステムや仕組みの、どの部分が弱点になっているかを認識していた辺境の地にある、日本の片田舎の小企業が変革の芽を創出し、花を咲かせた。



どの分野でも成長と繁栄は永遠に続くことはあり得ないが、LED開発でも同じ経過をたどった。日本の片田舎の小企業が、世界のエレクトロニクス系大企業に勝利したのは、それまでLED開発で、大企業がにぎっていた常識といっても良い開発規範に大企業自身が固執した結果、惰性が強まり、時が経つにつれ、変革に対する抵抗力が出てきたため、内部や外部の環境変化と規範（物さし・常識）が適合しなくなっていたのに気付かなかったのであった。

LED開発に対する規範と現実市場との矛盾が出始めてきた頃、矛盾や危機感を解消しようとする動きを見せたのは、日本の辺境の地の小企業であった。その危機感の中で新たなLED開発が生まれた。LED開発はガリウム砒素（GaAs）系LEDの研究から始まった。赤色から緑色へと光の波長を次第に短くしながら開発する赤色LEDから技術開発がすすめられた。

大企業によるLED技術開発は、GaAs系LEDの研究、開発、製造が50年にわたり行われた。青色LEDを開発するための半導体材料は、セレン化亜鉛（ZnSe）と窒化ガリウム（GaN）の二つがある。大企業はZnSe研究に、赤色LEDが適応できることから、適応できないGaN研究を捨ててしまった。ZnSe研究では、ウエハと呼ばれる単結晶基板である、GaAs単結晶基板を用いることができた。GaN研究では適応できる結晶基板がなかった。

1991年にZnSe半導体レーザー成  
功もあり、大企業各社はGaN研究を中止  
した。日亜化学は、青色LED開発レー  
スに1989年に参入した。経営者と技  
術者の夢を日亜化学は、GaN研究による  
青色LED開発に賭けた。その後、辺境  
の地にある小企業日亜化学の人達の非凡  
な努力と予測しがたい幸運とが重なって  
1993年に青色LEDの開発に成功し  
た。日亜化学の成功が真実とわかった大  
企業各社は、ZnSe研究を全て中止した。

唯一世界で青色LED技術と蛍光体技  
術を持っていた日亜化学が、その後白色  
LEDの開発にも成功した。辺境の地の  
小企業が大企業に大きく水を空ける結果  
となった。欧米企業の後塵を排していた  
日本企業がようやく先頭を走るようにな  
った。後塵を拝している時は、必要に応  
じてモノ造りをすれば良かったが、先頭  
を走っている今日の日本企業は、出発点  
としての命題創りが不可欠になる。仮説  
（コンセプト）は創造の方法に従って検

証され、結論が事実と一致することが証明されれば、真理として認められる。世界で初めての画期的な技術や創造的な商品を生み出し、流れを変える場となるのが、仮説創りである。

変革や刷新は新しい考え方を体系づけるような、その時代の有力な方法や範例を創出する。そのためには何をすべきか、解決せねばならないかという質が求められる。失敗を恐れずは何をやるかが重要となる。判断すること、感性や洞察力が、さらに求められる。一方のモノ造りの場においては、経済的成果をもたらす革新が要求される。

モノ造りにおいては、性能や歩留り、コスト、精度や安全性などの具体的な仕事量が大事となる。いかに確実につくりだすか、いかにうまくやるということが重要である。モノ造りは戦術的思考の場であり、戦略的な場ではない。視点は今、今日に置かれ、時間的余裕はないし、失敗は許されないのがモノ造りの場である。

組織内は分業化し、厳密なリスク管理やストレス管理が行われる。

日本企業が科学革命に関心を持つようになった事は喜ばしいが、仮説創りの場は戦略的な場であるので、以前のような旧態依然とした日本のモノ造りの場で支配した効率性を重視する伝統から脱却できないでいると、現状を維持する惰性が



カット ・ 筆者

強まり、集団としての慣性力は強くなり、変化に対する抵抗力の出現をみることになってしまう。そのことにより変革の芽を摘むことになる。変革の芽は全体を俯瞰し、組織や方式、仕組みのどの部分が障害になっているのかを認識することから創られる。青色LED開発レースで

は、辺境の地の小企業の方が、世界の大企業よりも変革の芽を創出しやすい環境にあったと言える。

LED世界最大手となった日亜化学工業を抱える徳島県では、開発支援のための基金新設や技術交流などの支援策を拡充している。日亜化学が成長すれば人や企業が、自然と徳島に集まってくるわけではない。応用製品開発には、パナソニック（松下電工）などの大手企業が商品を製造、販売する力は強い。地域の中小企業によるLEO応用製品開発が新しい地場産業につながることを期待し、現状を維持しながら、徳島の活路を求めめるだけでは、地勢的立地から言っても徳島経済を救える勢力になることは望めない。

日亜化学にだけ頼るのではなく、日亜化学に匹敵する開発力を持つ、新しい会社を二つ三つ育て、日亜と共に戦略的に仮説創りが出来、競いあえる企業の出現が地域経済活性化の取り組みには必要となる。

# 上落合

御園生 潤

平成20年9月24、25日の両日にかけて、私用のために一泊二日の旅程で帯広を訪ねた。両日とも秋晴れに恵まれ、片道3時間ほどの「狩勝越え」の列車の旅を満喫できた。

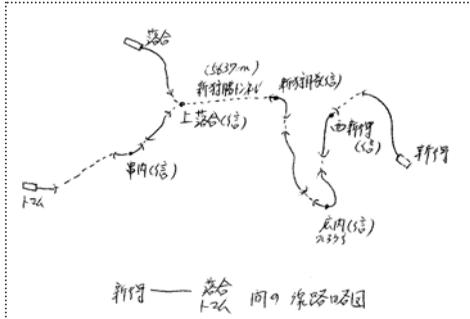
往路はスーパールとちち7号(37D・札幌発16時37分、帯広着19時17分)を利用した。秋の夕暮れの列車の旅も風情あるものであるが、新琴似駅から札幌駅までは普通列車を利用し、特急へと乗り継ぐことにした。普通列車の前面車窓からは、はるか遠く恵庭岳の山並みがくつきりと浮かびあがっていた。

10分の接続で発車した37Dは、ほぼ半数の席が埋まり、西日を浴びて千歳線を快走してゆく。秋の夕暮れの美しき、情緒を表現した短歌、俳句は古来より数多いが、一年で一番多彩な雲形の出現す

るといふ秋の空に、日々刻々と変化する夕陽の沈む様子の撮影に没頭するカメラマンたちも多い。石勝線に入ってから、列車後部の貫通扉の小窓から逆光線(西

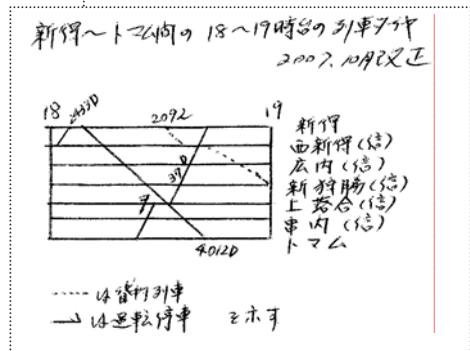
日)を浴びて、D

ラに記録された映像の深みが増す。新夕張に到着したころには、すっかり陽も落ち、上りのスーパールとちち8号(38D)との交換。丁度、日暮れの時間帯と重なり、ホームでは照明灯が両列車を幻想的に照らし出す。こちらは、キハ261系



VDカメラの撮影を続けていたが、列車の通過により、ざわめくようにささぎ波をうつスキの穂が印象的であった。

追分を過ぎると、東追分、川端、滝の上、十三里と一駅ずつ確実にDVDカメラ



(スーパール)宗谷と同悉、対向列車は283系の顔合わせである。占冠、トママと暗闇の中を順調に走りトママ着は定刻の18時17分。

今回の旅行の目的、新得間に存在する、長大トンネル「新狩勝トンネル」内に設けられている「上落合信号場」での列車交換を体験することであった。石勝線、根室本線は単線区間であるが、上図のダイヤグラムのように、新得トママ間には合計5つの信号場

(客扱いない列車交換施設)が存在するが、全長5637メートルの新狩勝トンネルの西側出入口から、ほどない距離に位置するのが上落合信号場である。この信号場は列車交換の地、滝川方向の根室本線と千歳方向の石勝線の分岐箇所としても機能している。

石勝線が開通した昭和56年10月以前のダイヤグラムを見ると一日あたり十回以上の列車交換がこの「トンネル内の」信号場で行われていたことがわかる。その後、徐々に減少し、現在では、私の乗車した37Dが4012D(スーパーおおぞら12号) 釧路発札幌行の通過を待つワン・シーンに限られるようになってしまった。一般の方々にとっては、どうしても良いことなのかもしれないが、鉄道ファンにとっては単線区間のトンネル内に設けられた信号場での列車交換は何とも言えぬ興奮を感じてしまうものである。

◇  
トマム発18しない…18と、ここまでは定期運転である。串内信号場を通過し、第一串内トンネルを抜けると、緩い右カーブ



札幌駅9番線ホームで出発を待つ振子特急スーパーとがち7号(キハ261系)と筆者

に差し掛かる。そして、上落合信号場の場内信号機の現示を予告する中継信号機が2つ設けられているが、いずれも斜め3灯の速度制限表示。どうやら対向列車

に遅れが出ると、こちらが駒を進めて、トンネルを出たところに位置する「新狩勝信号場」などへの交換場所変更が行われ、今回の目的は果たせなくなってしまう。

新狩勝トンネル・トマム口の手前の上落合信号場の下り場内信号機は下り本線(2番線)の信号が黄色を現示し、本信号場での待避を示している。徐行しつつトンネル内に進入しポイントを渡り待避線の2番線へと列車は進入し停止する。乗務車掌の「4分間の列車交換待ち」のアナウンスが入る。私は列車先頭部の貫通扉の小窓からトンネル内での貴重な交換シーンをDVDカメラで撮影していたが、乗客の殆んどはトンネルでの列車交換であることを知るすべもない。

ほどなく、一点の光が現われ、それが二つの前照灯となり、やがて高速でキハ283系9両編成のスーパーおおぞら12号が轟音と共に通過していった。手元の時計では18…31分であった。ほどな

くCTCセンターからのリモート操作で、2番線の出発信号機の現示が青色に変わり、出発反応標識が点灯し、車掌の信号確認のブザーの音が運転室内に鳴り、ホイッスルをトンネル内の空間に爽快に木魂させて慣らし37Dは出発した。トンネルを抜け、新得の街の灯を左に眺めつつ馬蹄型のカーブを一気に下り新得へ。十勝清水、芽室と、こまめに停車して定刻に高架化した帯広駅へと滑り込んだ。

この夜は旧友と会い、日程的にはシビアであったが、翌朝一番のとかち2号は(キハ183系、1500番代)で札幌へと引き返す。昭和63年富士重工工業製のプレートが歴史を物語る。「スーパー」なし(振子特急ではない)この列車、車両は速度ではやや劣り所要時間も伸びるが、車内放送は従来のように車掌がすべて肉声で行う。最近の多くの列車の車内放送が自動音声化される中で貴重な存在である。

この型の列車で札幌〜伊達紋別間を通

勤で十年間利用したことを思い起こしつつ、当時の様々な思い出や、加齢と共に少しずつ精神的余裕が出てきて、ようやく今日のようなことにエネルギーを向けることが出来るようになったことを、しみじみと感じつつ、「得割きっぷ」の旅を終えた。



今から約25年前の懐かしい思い出話である。大学卒業を約一年後にひかえた昭和59年2月10〜12日に、現在は小児科医として東京で活躍している旧友と流氷見物を目的に「道東回遊きっぷ」で列車旅行したことが忘れられない。往路は超満員の14系客車時代の夜行急行「大雪」で網走に入り、庄巻の北浜の流水と納沙布岬の展望を思い出におさめ、釧路に投宿後、私の強い希望を通して、帰路に利用したのが、鉄道ファンらには有名であった各駅停車の長距離、トン行の客車列車422Lであった。

車両は、今では殆んど見られない旧型

客車であり、午前7:56に釧路を出て富良野経由で滝川には17:21に到着するダイヤとなっていた。この列車は、新得を出てから4つの信号場にこまめに停車(運転停車:客扱いしない)し、今回の上落台信号場にも停車した。列車交換はなかったが、手動扉の客車列車であったため、約30秒間の運転停車の間、同信号場内の外気に直接肌で触れることが可能であった。長大トンネルの中の信号場には牽引していたDD51型ディーゼル機関車のアイドリング(エンジン)音が反響し、多数の蛍光灯の列と排煙の香りか鼻をついていた(蒸気機関車はすでに運用中止となっていた)ことが忘れられない。

時代は変わったが、今回、先頭車両の前面部(立ち入りは許可されている)でDVD撮影をしていた私の目に飛び込み、また、貫通扉のわずかな隙間から私の嗅覚を刺激してきた排煙の香りは、当時を彷彿させるものであった。

## 開業ABC (そのX)

中村雄彦

### 自分の限界はない

先日テレビで作曲家の池辺晋一郎氏が「シベリウスは60歳を過ぎて作曲をやめ、ただ自分の作品を聴いているだけで何もせず年金で暮らし、92歳まで生きていた、自分(池辺氏)はそうはしたくない、恐らく死ぬ前の日まで作曲をするだろう」といつていた。同じ日にテレビでみたカナダのピアニストのアムランは「芸術に自分の限界を設けるな」といつていた。

池辺氏は現在65歳だが、アムランは1961年生まれで未だ若い。しかし二人とも自分のやっていることに限界を設けない点では同じである。芸術家だから定年が無いといわれるかもしれない。音楽家に限らず、画家、小

説家、詩人などを見回しても、世の中には芸術家と呼ばれる人は決して多くはない。大部分は特色のない平凡な人である。しかし職業が何であれ、あることに集中してやってくれば、収入に繋がらなくて一生続けていけるものが一つや二つ残るものである。

私の父の後輩で一流国立大学経済学部を卒業した人で地方銀行の専務取締役までいったが、退任後もこれまで続いていた経済学の勉強を怠らず、経済関係の調査機関に招かれて、その長として亡くなるまで現職にあった。平凡なサラリーマンでこのような人もいるのである。

医師はどうか、2ヶ月前に大学の同級会があったが、出席したほとんどの人達が何らかの形で医師の職責を続けていた。学者と俳優に定年はないといわれる。それは医師にもあてはまる。大学で十分な研究を積んで、自己研鑽を怠らなければむしろ医師としての力量は伸びる。昔、日本医師会長武見太郎氏は「医師は65歳

までは成長を続ける」といわれた。今はその時よりも寿命は大幅に伸びている。こうなると年齢に限界はないといつてよい。

ただそれには、基礎が大切である。先日国立大学の臨床教授と話したが、今の医学生は医局離れを嘆き、例え超一流の大病院であっても絶対に大病院の医局でやっている医師教育のようにはいかないといつていた。私も全く同感である。私が学生の頃から「鉄は熱いうちに打て」といわれていた。若い新鮮な感受性豊かな時に十分に医師の卵はたいて育てる必要がある。

今、単なる医師不足の風潮に乗って医師の数だけ増やし、卒業教育について触れない役所のその場限りの対応は憤りさえ覚える。医師は卒業が大切である。きちんとした医師づくりをおこなわなければ、将来問題医師が続出するのはわかりきったことである。

加齢は何時終わるともしれぬ果てしな

く続く現代音楽のように、未知の世界である。毎日が新しい経験であり初体験である。勉強をおこたらず、毎日の経験を生かしていくならば、医師は何歳になっても医師であり続ける。死ぬまで続く。「何歳で死ぬのか」と聞かれたら百五十歳くらいと答えておけばよろしい。



皇宅屋上で家族と（1985年4月）

## 遺伝子を熟々惟う

秋元光博

日本では「笑う門には福来たる」という諺があり、外国では「笑いは副作用のない最良のメディスン」と言われている。

通院加療中のガン患者に、漫才、喜劇などを観賞してもらったところ、自然免疫の中心的役割を担うNK細胞の活性が上昇した。アトピー性皮膚炎の患者に、喜劇ビデオを観賞してもらったら、症状の改善が見られたなどである。

近年、「笑い」によって多くの遺伝子がオンになるとの報告がみられるようになった。遺伝子の大切な働きは、その情報を世代を超えて伝達することであるが、実は遺伝子にはもう一つの大切な働きがある。遺伝子は私たちの全ての細胞で、いま、一刻の休みもなく正確に働いている。

この遺伝情報に基づいて、タンパク質

酵素やホルモンなどが作られ、この酵素やホルモンなどが体を動かしている。面白いことに、最近多くの遺伝子が働かずに眠っていることが分かってきた。この遺伝子が、いろいろの刺激で目を覚ますメカニズムの研究が進展している。

例えば、熱を加えることによって、遺伝子のスイッチがオンになり、熱ショックタンパク質をつくることは昔から知られていた。しかし最近、水温が下がると魚の雄が雌になることもありうるということが分かってきた。これは男性ホルモンを作る遺伝子がオフになり、逆に女性ホルモンを作る遺伝子がオンになったことを意味する。このような温度だけでなく、圧力、張力、訓練、運動などの物理的要因によっても遺伝子のオン・オフが調節されているらしい。

また食べ物や栄養成分も、遺伝子のオン・オフを左右する因子として、最近注目されている。例えば、糖尿病の指標の

一つに血糖値があるが、血糖値は血液中のグルコースの濃度で測る。このグルコースは体内のエネルギー源としては、最も大切なもので、特に脳のエネルギー源として必須成分である。

したがって、グルコース濃度は、体内で非常に厳密にコントロールされている。その一定値を保持するのに大きな役割を果たしているのが遺伝子で、食事をして血糖値が上がると、体内のグルコース合成に關係する遺伝子のスイッチがオフに

## 「遺伝子」・「遺伝子」

さくま あや こ  
佐久間 文子

診療中に病変を接写で撮ってきました。そこから羽ばたいて自由な心で映像をとらえられるようになりたいと思います。宜しくご指導下さい。

04 東京都世田谷区羽根木2-26-120-2  
(耳鼻咽喉科、形成外科)

なって、生産をストップする。逆に食物をとらないで血糖値が下がると、同じ遺伝子のスイッチがオンとなり、グルコースの生産を始める。このような見事なオン・オフ機構により、血糖値を一定値に保っている。

そして、多くのビタミンなどの栄養素も、直接、間接に遺伝子のオン・オフに係していることが分かり始めた。

ごく最近、電気ショックや拘束、試験などのストレスが、遺伝子のオン・オフに影響するという報告が次々と発表された。このことは、精神的ストレスによっても遺伝子のオン・オフは調節されていることを推測させるのである。科学の進歩にとって仮説の提案は非常に重要である。科学は多くの場合、絶対の真理ではない。今まで積み上げられた知識と、ある条件で行われた実験結果を総合して、それを科学的に正しいと言っているに過ぎない。新しい事実の発見や、条件が変

われば、別の姿が見えてくる。

これが証明できれば、心と身体の間を遺伝子のオン・オフで解く突破口が開ける。そして多くの眠っている良い遺伝子をオンにすれば、人間の可能性はまだまだ開発されるものと思惟される。

天才といわれる人と、普通の人の遺伝子暗号(塩基配列)の差は、せいぜい千個に一個であり、意味のあるのは、さらに少なく一万个に一個ぐらいと考えられている。そうすると、人の遺伝子暗号の差は誤差の範囲である。この事実を重く受けとめたい。

私達一人一人は約三十八億年かけてサムシング・グレートが作り上げた最高傑作であるから、人は皆、自分の花を咲かせる可能性を持っているのだと断言したい。

犬の声まねて鴉が吠えており

車庫へ連なる犬小屋めがけ

都々逸の恩師・谷口安閑坊  
先生をめぐって

田村豊幸

本誌五七二号に本稿①を出したことがあった。

平成二十年の五月、風のたよりに安閑坊先生が日本文学の短歌・俳句と並んでいる都々逸の作風が、軽妙洒脱・垢抜色気・音響快調などのため、羨望される傾



向もあつてか、故意に軽視されることが稀にあつたのを、正しい評価に改めるべく、日本文学の神様のお一人、東京文京

都々逸之碑

都々逸は日本語の優雅さ言葉の綾言回し

の妙などを巧みに用いて人生の機微を二十六字

で綴る大衆の詩である。古くより黒石彦香

平山蘆江・長谷川伸らの先覚者により普及

されわれわれもその流れの中に研鑽を重ねて来た

短歌俳句と並ぶ三大詩型の伝統を守り更なる

向上、発展を願ひ各吟社協賛の下に詩歌の

神の在ますこの地に碑を建立する谷口安閑坊  
吉住義之助

東京

しぐれ吟社

茨城

花野吟社

東京

万友会

岐阜

かがり吟社

東京

遊文会

長野

白樺吟社

東京

眺牛会

愛知

千鳥吟社

京都

おむろ吟社

区湯島天神宮の境内に、高さ二米

の伊豆小松石で日本都々逸顕彰碑

を、安閑坊先生九十一歳を期し独

立で建てる事がきこえてきた。

早速うかがってみると、世話人

は現在全国の同人の最長老の先生と吉住

義之助のお二人で、碑の表面はここに示

すようであり、碑の裏面には活躍中の作

家一〇二名の名が刻んである。

奇しくも今日十二月十九日は、いささ

か都々逸的であつたかもしれない生涯の

私の八十七歳の誕生日である。平成年間

都々逸百人衆の末席をけがすことになつ

た一人の医師は、芭蕉の門人に数人の医

師がいたことも思い出したりしているの

である。

昭和五十一年八月、栃木県益子俳句会が、西明寺本堂に俳句を奉納したとき

花山院見給うころの花ぐもり

の作を、つけ加えさせていただくことが許されたが、はからずも、俳句から都々逸への浮気の実例にもなってしまった。

## へルシンキ温泉もどき

津 谷 喜一郎

入口から二階へ上る階段の前で遠目にちらりとプールが見える。泳いでいる人の臀部が白い。やはり水着は着用しないのだ。

夕方五時から始まったサーカスも、馬芸、犬芸、綱渡りなどと、レトロ調ものが多かった。晩年耳の遠くなった伯父がテレビでサーカスの馬芸を見て喜んでいたのを想い出した。十数人の中国少女の皿回しと自転車芸は、中国雑技団の出稼ぎと興行主にとって安価な出演料がマッチしたのだろう。サーカスが終わった

後、プールに来たのですでに八時近くになった。プールでは十人ほどがゆったり泳いでいる。

このウルヨンカトウ(Urjonka)という名の公共プールの建物も一九二八年に建てられたもので古風で落ち着く。二階建てで、一階の室内プールの上は吹き通しになっている。一階はロッカーのみで五ユーロ、二階にはプールを囲んでベッド付きの小部屋が廊下に沿って三十室ほど並んでおりそこで脱衣する。こちらは十五ユーロ。女性のスタッフが五人ほどいる。一人はタイ北部の生まれとの由。蒸気サウナ、ウツドサウナ、電気サウナがあり、一通り入ってみる。以前マニラで仕事をしていた頃、アドリアティコ通りにスウェーデンサウナという名の蒸気サウナがあったのを思い出す。どうも乾燥したサウナはわたしの体に合わない。

裸で歩くのはやはり憚りかられ、入口で借りた青いタオル地のガウンをまもって一階に降りる。階段を降りたところにあ

るフックにガウンを掛け裸になる。プール脇のステンレスの梯子につかまりプールに入る。二十六度とのことだが、足、下腿、大腿と浸かっていく時は、水着着用時よりも冷や冷や感が強い。

クロールで泳いでみる。それほど違和感はない。すぐに慣れる。泳いでいると古代ギリシャの壺の表面に全裸の競技者が描いてあったのが頭に浮かぶ。当時、水泳競技はあったのだろうか？ 平泳ぎをしてみる。どうも心細い。開脚時が不安定だ。慣れない。つぎは背泳ぎだ。意外とスムーズだ。通常は脚側を向いているのだから、水流と同じ方向だ。なにも帆船の帆柱のように水面に対して屹立して、潜水艦の艦橋のように水に抵抗しているわけではないのだ。バタフライもやってみる。キックは開脚しないのだからクロールと同じだ。

プールから上がると金髪の少女が入ってきた。驚いてよく見ると少年だ。顔が優しいので見誤った。

オスロでのWHO関係の会議の一部が  
予算難で延期され急に一日分短縮された。  
オスロには何度か来ており、つぎの目的  
地へ移動する途中、北欧でまだ行ったこ  
とのないフィンランドに立ち寄ってみよ  
うと思ひ立った。昔のWHOの仲間もお  
り、ちようど週末にかかり二泊できる。

インターネットで飛行機の便を確認した  
ところが朝早くに着いたオスロ空港の、  
航空会社の若い職員はチケットの変更  
はできないと頑固に言い張る。乗継便側  
のカウンターで日本の旅行会社との連絡  
を含めて三時間程かけて交渉し、ティケ  
ットを変更してヘルシンキに着いた。職  
員のミスだと最後には認めさせた。おか  
げで午前の便に乗り損ねたが苦勞して午  
後の便で来た甲斐はあった。懐かしいサ  
ーカスを見、こゝやつて裸で泳いでいる  
と開放感があり、空港でのトラブルでの  
記憶も遠ざかった。

二階の廊下にはカフェテリアのように

小さいテーブルと椅子二つが十セットほ  
どプールを見下ろすように並んでいる。

軽食もとれる。マティーニはおいていな  
い。ジントニックを飲みながら、ぼんや  
り、プールで泳いでいる人を観察する。

プールは五レーンで、二つのレーンの  
みロープが張つてある。外で泳ぐとき水  
着を着て他の部分が日焼けしそのあとが  
残っているせいで、泳者の臀部が白く際  
立つており、どうしてもそこに目が行つ  
てしまう。

泳法ではやはり平泳ぎが妙な感じがす  
る。特に開脚してキックする時が変だ。  
健康づくりのためか小柄なお年寄りもい  
る。一生懸命泳いでいるようなのだが前  
に進むのが遅い。開脚するたびに哀れを  
催す。うーん、なんとかならんか。痩せ  
蛙負けるな一茶ここにあり。

クロールは上手な人はスムーズで自然  
だ。ただし下手な人は息継ぎのときにど  
うしても体が横を向いてしまい。平泳ぎ  
と同様な妙な感じを催す。

背泳ぎをしているのが一人いる。これ  
も意外と自然だ。ところがこの男がやお  
ら、そのまま天井を見ながら平泳ぎの格  
好で泳ぎ始めた。これが一番、変だ。

一人だけ水着を付けた者が入つて来た。  
かえって不自然だ。なぜ彼は太勢に順応  
して裸にならんのか。係員は彼の行為を  
止めさせるべきだ。

男の裸を見ながら酒を飲むとますますな  
るかと思つたが、ジントニックの清涼感  
は不変であつた。ホテルへ戻ると、エレ  
ベータに今日で夏時間が終り明日から冬  
時間との掲示がしてある。明日はロンド  
ン経由でニューヨーク行きだ。時計をど  
つちに動かしたらよいのかだいぶ考えな  
いと結論が出ない。

日本の温泉の広い浴場で裸で少しだけ  
泳ぐのがやはりよい。また夏時間制度は  
世界的に廃止すべきだ。スオミ食堂が休  
みだったのは残念だった。

# 女の恨み節

大黒 勇

簡野道明講述和漢名詩類選評釋(昭和二十七年十月二十日修正七十版明治書院の閨閣類から若干拾つて紹介する。記憶外の平仄は林古溪著新修平仄字典(平成六年八月二十五日三十三版明治書院)に據つた。

怨情 李白

●○○○○○ ○○○○○○ ●●●●●●  
美人捲珠簾 深坐嘯蛾眉 但見淚痕濕  
●○○●●●  
不知心恨誰 四支韻 起句は他韻  
使用

簡野本によれば、失寵の宮女の怨情詩で、転句は初めの但見涕淚落を半年後に改めたのであり、大家も語句に苦心した一例なりと。詩歌では露骨を忌む事と漢共通である。

子夜春歌 郭振  
●○○○○○ ●○○○○○ ●○○●●●●●  
陌頭楊柳枝 已被春風吹 妾心正斷絶

○○○○●● ●  
君懷那得知 四支韻

諸橋大漢和によれば、子夜は東晋の女音曲に通じ、その頃流行の俚謡の調によつて、五言四句の短章を情人に送つた。

子夜歌は後の詩人が之に倣つて作つたもの。詩意は妾は夫を思はぬ日は無いけれど、この陽春の時に逢つては一入懐しく傷心著しいのに、夫はそれを知つて居ようかと、その薄情を恨むなりと。簡野本には和譯二が紹介してある。一は大江玄圃譯「往き返るちまたの柳枝垂れて、春のあらしに吹かるめり、心亂れし此のうさを戀しき人の知るべくもがな」一は柳澤淇園訳「町のほとりの柳さへ、あれ春風が吹くわいな、わしが心の遣るせなぞ、思ふとのごに知らせたい」

次には邦人の異色の詩を掲げる。

三叉江 山田政苗  
●○○○○○ ●●●●●● ●○○●●●●●  
贖佳人 佳人顰 太守嗔 妾身任君殺  
●○○●●● ●○○○○○ ●○○●●●●●  
妾身任君活 妾有阿郎在 妾心不可奪

●●●●●● ●○○○○●○○○  
鬢髮在手亂如絲 木蘭舟中斬蛾眉  
●●●○○○ ●●●○○○ ●○○●●●●●  
遺恨不知深幾尺 三叉之水終古碧

事は戯作者の虚構なれども、詩は最も佳にして人口に膾炙せりと簡野本では激賞し、日本人の作は此一首のみを載せてある。鬢髮は美しき髪、蛾眉は美人の表現。妾身任君殺妾身任君活は、自分を活かすも殺すもあなた次第の意。妾有阿郎在は自分には情夫が居るの意。筆者は古詩の知識が皆無に近いが、一應平仄はつけて置いた。七言絶句の如き整つた詩の知識から見ると、平仄が出たら目に見えるが、詩である以上歌唱可能に並べてみると察せられる。

各句の最後の字の韻のみ附記する。

人顰嗔(アン)の時は一先なれどどここではシンの三字は十一真韻、絲眉は四支韻、活奪は入聲七曷韻、尺碧は入聲十一陌韻、仲間なしは殺の入聲八黠と在の上聲十賄韻。

## 雪の音

方波見 康 雄

「ハしんしんVつて、どんな音なの」  
冬の日の外来で小学一年の泰ちゃんから受けた質問だ。

疑問のきっかけは、こうだった。

前の日の夕方、おばあちゃんが外を眺めて、雪がしんしんと降っていると口にした。少年はすぐに外に出てみたが、静まり返っているだけで、物音一つしていなかった。

どうしてボクには聴こえないのか、おばあちゃんの耳は特別なのかと不思議に思った。おばあちゃんはふだんから、分からないことはカタバミセンセイに聞きなさいと言っている。それで訪ねて来たのだそうだ。

「泰ちゃん、降っている雪を眺めたと  
き、どんな感じがした。楽しかった？」  
「静かで、ちよっと淋しくなった」

「泰ちゃんね、人間が聞く音には、大まかに分けて二つある。耳に伝わってくる音と心で感じる音、つまり心の耳で聴く音ということになる。」

雪やハこんこんVという唱歌、知っているね。雪が特別にハこんこんVと音を立てて降っているわけではない。空から舞い降りてくる雪の情景を眺めて人間が感じた音がハこんこんV、耳には聴こえないけど心にはそう響いてくる音。ハしんしんVも同じだね。

泰ちゃん、淋しいと言ったね。その感じを音にしたのがハしんしんV。ハこんこんVはどちらかというと明るい感じになる。

こういう音、他にもたくさんある。唱歌や童謡、詩や国語の勉強をすると、だんだん分かってくるよ」

少年の疑問は突き詰めると結構な奥行きと広がりがある。すこし考えてみよう。

ハしんしんVハこんこんVは擬音語、

擬声語・擬態語などを含めてオノマトペと呼ばれている。世界の言語の中でも、日本語はオノマトペの宝庫と言われるほどに擬音語的表現が豊かだ。詩歌を引用してみよう。

ひた走るわが道暗くしんしんと  
怵へかねたるわが道くらし

(斎藤茂吉)

君は信じるぎんぎんぎらぎら

人間の原点はかがやくという嘘を

(佐佐木行綱)

痛みまで夜はきらきらと寒椿

(加藤知世子)

文化人類学者・川田順造によると、擬音語・擬態語は伝達というレベルとその質において、話す者の心を直にあらわし、聞く者の感性に直に働きかけ、一気に核心をつかむ強さを持つ(川田順造『聲』筑摩書房)。

俳人・中原幸子はおもしろいことを言っている。人間は言葉をも鳥から学んだ。擬音語や擬声語・擬態語には「まねる」

という意味の「擬する」が付いている。ヒトは原初のころ、周囲に満ち満ちていた自然の音や鳥や動物の鳴き声などからコトバを見様見真似で習得したのだろう（中原幸子『言葉を探る』船団）。

オノマトペに富む言語とは、そのぶんだけ心の耳つまり感性で聴き取る繊細さに恵まれた言葉ということになる。だから「一気に核心をつかむ強さ」があるのだろう。和歌から短歌そして俳句などの伝統文芸と五・七・五調の音韻と音楽性は、擬音語などの豊穡さに由来しているのかもしれない。四季折々の変化や海洋性とモンスーン地帯などという風土と自然の恩恵でもあろう。

「山色を見、谿声を聴く……。うらむべし山水にかくれたる声色あることを。」道元禪師『正法眼蔵』の「谿声山色」に書かれている言葉だ。ここでは私流に、「天地自然は有情を蔵している、つまり感情的なものであり、人間の情緒もまた、

その天地の有情と地続きになっっている」と勝手に言い換えておこう。オノマトペはいわば、この天地有情と谿声山色を映し出した言葉なのかもしれない。

少年泰ちゃんには母親がいない。去年の晩秋に急性白血病で亡くなっている。葬儀のとき、野辺の送りのときも、涙を滂沱と流しながらも泣声はついにあげなかった。痛みと苦しみに耐えた母親のことを思い出して悔えたのだそうだ。

いまは、二つ下の弟と父親とおばあちゃんとの四人暮らし。毎晩仏壇に手を合わせてから寝るといふ。この孫と同じ年頃から患者さんとしてお付き合いのあるおばあちゃんが、外来に見えての話だ。彼女はときおり、さめざめと涙を流す。亡くなった若い娘も、残された幼い孫も不憫だと嘆く。

北国の冬の夜空から静かに舞い降りてくる雪。彼女はそれを眺めて思わず呟いたのがへしんしんVという言葉。天地の

有情と老女の心が共振したのでだろう。

幼くして悲しみを知った少年は、夜の冬景色に「淋しさ」を感じ取った。その淋しさは、死んだ母親の悲しみと地続きになっっている。たぶんそのうちに、へしんしんVに含まれるニュアンスの深さや意味の多義性も理解と納得をしていくことだろう。

「雪は天からの手紙」とは雪氷学者・中谷宇吉郎の言葉だ。ひらひら舞う六華の雪片のどれひとつとして同じものはない、すべてに宇宙の意志が込められているといふ。

雪の音にもまた、「音霊」「言霊」といふ、いのちの韻うたのメッセージが含まれている。



# 七十二年前の新聞

豊泉 清

私は昭和十二年（一九三七年）五月十日生まれの丑年で、今年は七十二歳の年男である。数年前に某製薬会社から、誕生日の朝日新聞を誕生祝いとして頂いたことがある。第一面だけをB4版に縮小コピーして、診察券のようにラミネート加工してある。そこで改めて七十二年前の新聞（写真①）に目を通して見た。

第一面のトップ記事は「深刻な物價急騰の渦紋」という大見出しである。中見出しには、深まり行く窮迫、國民生活に重大暗影、政府の抑制策も實効疑問と書いてある。昨年秋以来、急角度の騰勢に轉じた我國物價は依然として高騰傾向が改まらない。（中略）かゝる物價の急騰は我國最近の景気現象の救ひ難き跛行性のゆゑに今やあらゆる方面において深刻なる摩擦と相克とを引き起こし、物價問題

朝日新聞

深まり行く窮迫  
國民生活に重大暗影  
政府の抑制策も實効疑問  
各方面の影響と対策

生産力の擴充に  
含まれる矛盾  
行政の手心による政府

一年の騰貴率  
二割五分

慘めな俸給生活  
實質賃銀の上らぬ労働  
ますます窮乏  
米も高いが

板挟みの中小業  
大資本の壓迫に喘ぐ

昇はそのまゝ労働者俸給生活者の生活の低下を物語るものであり同時にまた國民生活不安の尺度を示すものである。

は日を逐うてわが財政經濟と國民生活の上に全面的に暗影を投げかけつゝある。同じ一面の中ほどには「慘めな俸給生活者、實質賃銀の上らぬ労働階級」という見出しの記事が載っている。現在に至るまで一般に見るべき賃銀、俸給の値上りがが實施されなかつたから生計費の上

しては其の發病豫防と體位増強の爲に試用せらるべき最良の方法である……という宣伝文句が書いてある。結核が國民病だったことを反映している。

第一面の記事は、今の社会の話かと錯覚を起すほど内容が酷似しているのに先ず驚かされる。昭和十二年には日本軍

が中国を侵攻する日華事変が始まり、次第に戦時色が濃厚となつて、国民は耐乏生活を強いられ、四年後の昭和十六年に太平洋戦争が勃発したが、四歳だから全く記憶にない。更にその四年後の昭和二十年に終戦を迎えた時は八歳だから、大人たちが神妙な顔をして耳を傾けていた玉音放送の場面などは覚えてゐる。それから瞬く間に六十四年の歳月が流れた。

当時の新聞は画数の多い旧字体で書かれている。記事に登場した旧字体を現代表記と比較してみた。

物價 (物価)	國民 (国民)
實効 (実効)	經濟 (経済)
勞働 (労働)	豫防 (予防)
應用 (応用)	體質 (体質)
發揮 (發揮)	學生 (学生)
對 (対)	爲 (為)
轉 (転)	慘 (惨)
屢 (屢)	

かかる、つつ、ままなど、同じ仮名文

字を繰り返す言葉は、二番目の文字が「ゝ」と書いている。また「ゆえに」が「ゆゑに」と書いてある。就中（なかんづく）や所謂（いわゆる）も漢字表記である。現代の若い世代に七十二年前の新聞の第一面が読みこなせるだろうか。漢字クイズの問題が作れそうな紙面である。パソコンに「ちんぎん」と入力すると「賃銀」と「賃金」に変換できる。昭和十二年の新聞には賃銀と表記してあるが、私は最初に賃金と教わり、今でも反射的に賃金と書いている。現金、年金、税金、送金など、金は「ぎん」と澄んで読むが、賃金だけは例外的に「ぎん」と濁つて読む。

### タンと舌

水田 正能

最近、肉料理はほとんど欲しがらなくなった。末の娘が進学し家を出て荊妻と二人になれば、肉が食卓にのぼることもなくなるだろう。ただし、若い人たちと飲みに行くときに、よく連れてゆかれるのは焼肉屋である。焼肉屋で注文の定番はタン塩で必ずレモンが付いてくる。私はあまりタン塩に箸を伸ばすことはない。なぜならば仙台の地元牛タンを何度となく食したからである。行かれた方は同意されるであろうが、仙台のタンは食感を一たび味わえば、山陰の焼肉屋の薄いタン塩を食べようとは思わない。

牛タンが仙台に現れたのは、昭和二十五年で、焼鳥屋だった“太助”が“牛たん焼き”を世に出した。進駐軍から流れてきた牛タンに、あれこれ考えて塩とこしょうで下味を付けて炭火で焼いた。今

はさらに麦飯、テールスープを加えたのが定番メニューである。厚みがありながらさらりと歯で噛みきれる。そして歯こたえもある。塩タンなど遠く及ばない。

大リーガーのイチローは、「日本でのオフを楽しんでいますか」という質問に「たくさんの方達がいるので会うのは楽しい。とにかくうまいものを食べられるのが最大の喜び。牛タンからは離れられない」(朝日新聞2002年1月18日)と語っている。

タンといえば食材だが、舌と書くと涎はでない。『和漢三才図会』に、『内経』に次のようにいう。舌は心の司るところであるから、心が舌に通じる。心が和すれば舌はよく五味を知るのである、とある。舌の大切な役割は舐めて味をみることである。『からだの日本文化』に、戦前にブラジルに移民した日本人が、着くなり土のひとかけらを口で舐めるのをみた欧州からきた移民が驚き不思議がった。日系の農民は、土を舐めて土の具合、適

否を判断し、この味の土にどの作物が合うか決めた。日系人は、彼らの口、彼らの舌の力によって地球の裏側に土着したという話が載っていた。

テレビ番組ではないが、舌を含む単語を五つ上げるといえば、すぐ二枚舌と答えがあるだろう。特に大臣とかお役人は二枚舌がお好きなようで、産科医療崩壊を救うと言ったかと思えば、少子化対策が最優先ともいう。産婦人科部長として勤務している今の病院の産科も存続の危機にある。香川県とほぼ同じ面積をもつ当院の医療圏で、唯一の分娩施設の当院が分娩停止になれば、多くのお産難民の方々が他の地域に流出するだろう。分娩だけは待たないのだから。

法華経では、釈迦無尼仏の舌は梵天世界にまでとどいたそうである。その上、その舌の無数の孔から幾千万億という光が放たれ、十万世界を照らし、さらに、その光線の一筋一筋から数多の菩薩が誕生したという。国政を左右する人々の舌

は、政権欲しきの舌舐めずりは止めて、仏の舌になって欲しいものである。

## おならが島

池田 壽雄

○：おならの精

I：池田壽雄

○ ワアーン。ワアーン。

I おい、おい。どうしたんだい？

○ ワタシたち、人間からしよつちゅう、いじめにあつてるんです。ワアーン。ワアーン。

I いじめつて、どんなことされたの？

○ ああ、くさい！ クサイ！ 臭い！ つて。あつちへ行けだつて。

I そりやあ、キミたちは正直言つて臭いから、やむをえんなあ。

○ あなた、「臭い、臭い」と言われる身にもなつてみなさい。つらいものです

よ。ああ、悲しい。くやしい。これが泣かずにいられますようか。ワアン。ワアン。

I キミの泣き声は、「ブー、ブー」とか「ブー、ブー」とか俺の耳には聞えるんだけど。

O 私たち、どれほど人間に役立っているのか、知ってるんですか。

I そりゃあ、みんな知っているとですよ。おならが出そうで出ないときほど苦しいことはないからね。

O そうでしょ。開腹の手術後、外科の病棟で最初の一発のおならが出たときの、患者さんの喜び方を、あなたお医者さんだから良く知ってるでしょ？

I ええ、もちろん。「ヤッター！」て、皆、手を叩いて喜んでいるねえ。

O そうでしょ。おならが出たら、食事が許されるからね。

I 私はね、おならの臭いをかぐたびに、九州の故郷の家を懐かしく思い浮かべるんだよ。

O え？ どうして？

I 私の実家は田舎の診療所だったんだけどね、田んぼの中に家がぼつんと離れて建っていたんだよ。お百姓さんは、私が子供の頃はね、人糞を肥料にして田んぼにまいていたんだ。だから、肥料がまかれてから数日間は、ウンチの臭いが家の中を通り抜けていたんだ。でも、当たり前と思っていたから、一度もお百姓さんに抗議をしたことはなかったんだよ。臭いのはすぐに慣れていたしね。

### 風呂の屁に遠い田舎を思い出し 白梨

O 私たち、大腸の中にいる時はね、とっても仲良しなの。だから、おならになつて、いざ外に出るときには、本当に悲しいのよ。おいおい泣くのよ。お風呂でおならが出る時には、体の前と後ろに別れることもあるでしょ。実に悲しい別れなの。

### 風呂の屁は前と後ろに泣き別れ よみびと知らず

I でもね、別れてからすぐに会う、つまり再会するおならもあるらしいよ。

### 風呂の屁は尻で別れて肩で会い よみびと知らず

O そりゃ、そういう事もたまにはあるでしょうね。すっかり覚えていてちゃうだいな。おならはとっても情が深いよ。

I 親子の仲もとってもいいようだね。カルガモの親子は、母親の後ろに子供たちが10羽くらい続いて歩いているでしょ。おならもそうだね。

### 風呂の屁は親の後ろに子が続き 白梨

O そう言えば、大きなおならの後に、ブクブクとちっちゃなおならが続いて出ることありますね。

I これを「カルガモ屁」と名づけたら

「どうかな」と私は思っているんだけどね。

○ (拍手) 命名としてはサイコーですよ。

I 私が大学生だったころ、コンパで「おならのかぞえ歌」をよく歌ったものですよ。手を叩きながら、聞く人は「ブカプー」と相槌の掛け声を出すのです。

一つとせ

一人ですのを下宿おならと申します

ブカプー 遠慮いりません ブカプー

二つとせ

二人ですのをアベックおならと申します

ブカプー 気が合います ブカプー

三つとせ

みんなですのを集団おならと申します

ブカプー 誰かわかりません ブカプー

四つとせ

よそですのをよそ行きおならと申します

ブカプー すかします ブカプー (中略)

六つとせ

無理やりするのをりきみおならと申します

ブカプー 少し実が出ます ブカプー

七つとせ

泣き泣きするのを心中おならと申します

ブカプー これが最後です ブカプー

○ これは面白いですね。良くできてますね。

I 酒を飲みながら、ワイワイと騒いで

こういう歌を歌ったものです。ところ

で、私が大阪に住んでいたころ、昭和

45年(1970)ごろのことですが、

隣に住んでいた50歳くらいのご主人

がこんな話をしてくれたのです。

「家内がね。私が家でおならをしたら、

文句いったんですわ。まあレデイの前

で失礼ね、と。

そこで私が言い返しましてん。

人間生きておれば、音もする、臭いも

する、と」

○ そうですわね。おならが出るとい

ことは、生きている証拠。ありがたい、ありがたいと感謝しなければならぬのですよ。同感、同感」

I 「死人に口なし」と言いますがね、

人は死んだらおならも出なくなりま

すね。でも、人を軽蔑するときに、あ

いつは「屁のような人間」と言い放つこ

ともありますなあ。

○ やつぱり、あなたは私を軽蔑してい

るのね。大嫌いだわ！

## 明星学園

星野達夫

### はじめに

今年元気に94回目の誕生日を迎えた私の父は、定年まで新潟県長岡市に本社のある製紙会社に勤めた。この会社は終戦後の一時期定時制高校を持っていたことがあり、彼はそこで教鞭をとった。教え子たちとの交流は今も続いている。年1回開かれる同窓会には父も招待される。

そこでスピーチをすることが彼の大きな楽しみのひとつである。以下の物語は数年前、同窓会の前日に父が私に語ってくれた話をもとに書いた。

### 米百俵の精神

平成17年7月16日、私の父星野敏夫は新潟県長岡市にある割烹の老舗「青善」で開かれた明星学園の同窓会、パーティーに出席していた。彼はこの学園で教鞭をとったことがあり今日は卒業生から招待されたのである。出席者の中の最長老としてスピーチも頼まれていた。

明星学園、正式には北越製紙高等学校明星学園、は昭和23年から34年までの12年間だけ、当時新潟県長岡市に本社があった北越製紙株式会社が開いていた定時制高校である。学園生は毎朝9時から午後の3時まで北越製紙の社員として勤務し、そのあとは会社の隣にある明星学園の校舎に移動して授業を受けた。授業は4時から8時までの4時間であった。

1クラス10数名(開校時は5名)の少人数制で4年制のこの学園は全校生徒約60名であった。

明星学園は学費をとらなかつた。生徒達は北越製紙から社員として給料をもらい更に授業料が免除されていたのである。こうして向学心はあるが、戦争で一家の大黒柱を失うなど家の事情で高校に進学出来ない中学生に門戸を開いていたのである。これは社長田村文吉の方針であり、「財源の使い道に関しては人材の育成を最優先とする」という小林虎三郎の米百俵精神に基づいたものだった。

小林虎三郎は越後国長岡藩士。幕末の戊辰戦争の際に官軍に敵対した長岡藩は1868年、長岡城をめぐる北越戦争に敗れる。壊滅的な打撃を受けた長岡藩に同藩の支藩である三根山藩より米百俵が寄贈された。小林虎三郎は米の分配を迫る藩士を説得してこれを元手に学校を作った。米百俵精神とはこの教育第一主義の考え方をいう。

生徒数に関して蛇足ながら付け加えると、明星学園が開校していた12年間のうちの前半は長岡市出身者のみを採用していた。後半は生徒数を増やし長岡と新潟市出身者が半々で採用された。このことは長岡市以外の地域からも入学希望者が多かったことを示している。この入社兼入学試験に応募したのは県内でもっとも優秀なレベルに属する生徒達だった。北越製紙百年史編纂室の出す「社史編纂室たより」によれば希望者は各中学推薦の成績優秀者でその中から更に選別されるという状況で、5名の採用に対して70

—80名が応募するという狭き門だった。卒業生同士がすっかり外観が変わった相手を、胸に着けた名札を見ながら確認し合い、再会の喜びの声を上げる会場を感慨深くながめていた91歳、長岡弁で言うクーージュジサ(90のおじいさん)になった敏夫にひとりの初老の紳士が近づいてきた。

「星野先生、おぼえていらっしやいます

でしようか、わたし小倉政次でございます。先生に社会学を教わりました」

今日では社会学は英語、数学、国語に比べてそれほど重要な科目と見做されていない。しかし戦後間もない、社会の体制が大きく変わったこの当時は社会学の授業で教わる内容は生徒にとってきわめて刺激に満ちたものだったと思われる。その証拠だろうか、彼は敏夫が社会学の授業のために自分で作った教科書を持って来ていた。

小倉政次の教わった社会学を敏夫は明星学園が開校した昭和23年から教えていた。敏夫は35歳だった。30歳で戦地から帰り31歳で神戸に本社を置く川崎汽船に復職、次いで郷里長岡の北越製紙に移ったばかりのエネルギーあふれる青年だった。

その敏夫に社会学を担当してくれないかと頼んできたのは学園長の太刀川浩一郎だった。自分は教師の資格を持っていない、無資格の者に教わっては後になっ

て生徒が困ることがあるのではないか、という敏夫に、高商（現在の一橋大）出身の太刀川はいった「いや大丈夫、社会学の教師は旧帝大出ならそのまま教師の資格があるのだ」。敏夫は昭和12年東京帝国大学法学部卒で資格に問題はなかった。

社会学は戦前にはなかった新しい教科書だった。担当を引き受けて敏夫はまず社会学の教科書を2、3冊取り寄せて読んでみた。「どれもつまらない、こんな教科書で教わる生徒はかわいそうだ」と思った。「よしそれなら自分が教科書をつくってやれ」。

敏夫がシナから九死に一生を得て帰ってきてから数年が経っていた。戦地での悲惨な体験は口に出して語るにはまだあまりに生々し過ぎたが（実際、長男の私は今日に至るまで戦争の本当に悲惨な話を父親から聞いていない）、敏夫はすでに気力、体力ともに充分に回復していた。なによりも知的エネルギーが充電されて

いた。自分で教科書を作るといふ思いつきに燃えるようなファイテンクスピリットを感じた。

敏夫は長岡市稽古町の自宅で、仕事から帰ってから2階の自分の部屋にこもり、社会人になるや戦争に引き出され卒業以来手をつけることのない大学講義録まで引っぱり出して情報を集め、整理し、毎晩1時、2時まで執筆を続けた。裁判の項ひとつにしても「判決をくだすには自由だけでは不十分。物的証拠がなければならぬ。被告人にも人権がある」という戦前にはなかった概念を盛り込むなど斬新な内容に仕上げた。これを英語担当の直井時雄にガリ版印刷してもらった。

こうして出来上がった教科書を使い1回の授業で2ページずつ講義しながら授業を進めた。いま、目の前の小倉が手にしている古びて黄色味がかった印刷物はそのときの教科書だった。どのページにもどの行にも敏夫の熱い情熱と蓄積した

知識が詰め込められていた。

敏夫の社会学科の授業を受けた小倉政次は、長岡市立東中学校を首席で卒業した優秀な生徒だった。不幸なことに中学を卒業する直前に父親が急死し、県立長岡高等学校へ進学する夢は絶たれてしまった。そのような時、北越製紙の明星学園の話を目にした。社員として働き給料をもらえらうえに高校生として勉強を続けられる。しかも授業料は要らないという。小倉は一度あきらめかけた夢が自分に向かって手招きをしているのを感じた。彼は迷うことなく応募し多くの受験生の中から見事に合格した。昭和28年のこの時の入社(入学)試験は特に狭き門で180人の受験生のうち採用されたものはわずか5人という難関だった。敏夫はその時の面接試験官の一人だった。

明星学園を卒業後向学心のある小倉は、北越製紙を退社し新潟大学に進学した。

ある日、法律の授業で「裁判」の講義があった。教壇の講師は「裁判には民事裁判

と刑事裁判がある。裁判では原告と被告がいる。この原告は民事裁判と刑事裁判

とでは次のような大きな違いがある。すなわち民事裁判では原告は民間人であるのに対して刑事裁判では国が原告になる。具体的には検察庁である」とのべた。隣で講義を聴いていた級友に小倉はいった。

「このことは高校で教わったよね」

『なるほど、そうなのか』と大学のレベルの高い講義に深く感動して聴いていた

この級友は彼のことばに驚いた。

「えっ、高校で習った？ どこ的高校で

このレベルまで教えるの？」

「明星学園だよ」

「ミョージョー？ 知らない名前だな

あ」

小倉は明星学園は北越製紙株式会社が開いている定時制高校であること、今日の内容は社会学科の時間に教わったこと、先生は東大出の先生だったことを話した。

友人は言った

「東大？ それなら多分どこかの会社役

員かなんかをしている老人が、小遣い稼いで授業しているんだろう」

「いや、30台の若くて元気な先生だよ。私がいうと友人は本当にびっくりしてしました、と50年以上も前のエピソードを話す小倉の表情は楽しそうだった。

小倉が在学していた頃の明星学園のティーチングスタッフは充実していた。校長は国立大学教授を辞し郷里に帰っていた、長岡の旧家太刀川家の長男太刀川浩一郎だった。太刀川は長岡中の高等学校を片っ端から訪ね、優れた教師を見つけるとは明星学園で夜間の授業を担当してくれるように頼んだ。こうして長岡工業高校の数学の看板教師諸里忠治、長岡高校の英語の名教師直井時雄、体操の尾崎、長岡高女からは国語の小林、音楽の渋谷が講師として招かれた。社会学科は敏夫だった。この結果、生徒数約60名に対して先生は約20名というこの上なく恵まれた環境が出来上がった。

教育課程には普通高校とまったく同じ

内容を盛り込んだ。修学旅行もやり文化祭もやった。グラウンドでは夜間照明のもとに運動部が課外活動に打ち込んだ。この中には県の大会に出て勝ち進んだ部も多かった。

小倉をはじめどの生徒も、明星学園の優れた教授陣による1クラス5人という超小人数の英才教育が、県下のどの高校にも負けないすばらしいものであることを知っていた。その生徒にしても家庭は経済的に恵まれなかったが、中学時代にはいずれもずばぬけて優秀な成績をおさめた優等生ばかりであり、定時制高校ではあったがむしろエリート意識さえ持っていた。

「驚く級友の顔を見てわたしは明星学園でレベルの高い授業を受けてきたことをあらためて実感しました。明星学園に学べて本当に幸せでした」小倉は敏夫に心からこういった。

「えー、会場もだいぶ盛り上がってまいました。このへんでわれらが恩師、

星野敏夫先生からスピーチをいただきましたと思います」司会者の声がマイクを通して会場いっぱいに流れた。

「星野先生は今年91歳になりましたがごらんとおり大変にお元気です。敏夫の凛とした姿に感嘆の声が上がった。

『優秀な若者に門戸を開き優れた人材に金を出すという米百俵精神は明星学園で見事に結実したのです』このように話を持っていくこうと考えながら敏夫は大きな暖かい拍手の中を演壇に向かった。

## 後記

明星学園は多くの優れた青年を世に出した後、昭和34年に短い歴史を閉じた。学園を閉じた理由は北越製紙の経営難であった。人員整理の嵐の吹き荒れるなか、学園生は自ら進んで退社願いを出した。会社の苦しい財政のもとでレベルの高い教育を享受し続けることに肩身の狭さ感じたのかもしれない。また、そうすることが意義

のある北越製株式会社への恩返しと考えたのかもしれない。

今私の手元に小倉が同窓会のために作成した卒業生名簿がある。それによれば最後の在校生は、4年生に進級するはずだった3年生の10名を筆頭に2年生10名、1年生11名の計31名だった。彼らのうち長岡市出身者は県立長岡高校の定時制コースに移り、新潟市出身者は県立新潟高校に定時制がなかったため隣町の新潟市立沼垂（ぬつたり）高校の定時制コースに転校した。

その後各人が歩んだ道はさまざまであるが、中央大学に進み弁護士になった者、新潟大学に進学した者、東北大学に行った者など、いずれも不幸な運命をもつていない。沼垂に行った学園生は沼垂小学校の校長になり後年勤続30年の叙勲を受けている。

（文中 小倉政次氏は仮名）